

しみずの教育

ちょっといい話

【平成29年3月号】

清水小学校

校長 山下 勇

大豆を使った料理を作ろう・・・4年生

春に種まきをした大豆。雨が続いたために発芽状況が悪かったのでまき直しました。その後、世話をしたり、観察をしたりして育てましたが、台風が直撃したために収穫ができたのはわずかな量でした。

大豆の学習で関わっていただいた農家の方から大豆をいただき、大豆の料理づくりを行いました。メニューは、1組は大豆入りの餃子、簡単とろとろ豆乳プリン、ココアなお豆のお菓子の三品でした。2組は大豆とチキンのトマト煮、豆乳アイス、きなこもちの三品でした。



子どもたちは、総合的な学習の時間に「大豆」の栽培や観察を通して大豆のことを学習するとともに、大豆を使った料理を通して食育について学習しました。引き続き来年度も、大豆を通して「食育」を学ぶ予定です。



6年生と1年生との交流

卒業を間近に控えた6年生が、1年生との思い出づくりと進級する1年生へのエールと願いを込めて、1年生を楽しませ、1年生に喜んでもらえる交流会を企画してくれました。交流会では、手つなぎオニや新聞ゲーム、宝探しを6年生と1年生が一緒になって仲良く、そして楽しみながら活動していました。さらに仲良くなった6年生と1年生の姿からは、満足感と達成感が伝わってきました。そして、たくさんの笑顔が溢れていました。この交流は、本校のよき伝統として受け継がれています。今後も、6年生と1年生のつながりを深める教育活動として継続していきたい活動の一つです。



授業参観に多数の保護者の皆様が参加

今年度最後の授業参観を行いました。〈中学年（2/21）、高学年（2/22）、低学年（2/23）ひかり（3/1）〉当日は、生活科、道徳、体育、音楽、特別活動の授業を参観いただきました。参観後、学年・学級懇談会にも多くの方に参加いただきました。授業や懇談会を通して、1年間の子どもの変容（成長したことや取り組まなければならないことなど）や進学・進級に向けての準備、家庭で取り組んでいただきたいことについてお伝えするとともに、話し合うことができました。

6年生に感謝と激励の「6年生を送る会」

3月3日（金）に、「6年生を送る会」を行いました。今年1年間、清水小学校の顔・リーダーとして、全校をまとめ、先頭になって活動してくれた6年生に感謝の気持ちと、中学校でも活躍することを励ます会となりました。6年生に感謝の気持ちを綴ったメッセージカードを手渡した1年生、長縄飛び対決で交流した2年生、お笑いで楽しませた3年生、ダンスや音楽で6年生の思い出を振り返り、マット・跳び箱対決した4年生、お笑いとダンスで和ませ、喜ばせ、盛り上げた5年生。各学年の発表を6年生はとても楽しそうに見ていました。しっかりと在校生の感謝と激励の思いが6年生に伝わっていました。最後に、6年生から在校生に、リコーダー演奏や歌、エールが送られました。楽しくて、温かな雰囲気にも包まれた「6年生を送る会」となりました。



御影小学校

6年生を送る会



「6年生を送る会」が3月3日（金）にありました。会場には子ども達の寄せ書きなど飾られ、心温まる雰囲気の中進みました。1年生から5年生までが、6年生への感謝の気持ちが伝わる発表でした。6年生の出し物の後の歌声は、会場や子どもたち・保護者・先生方の心に響くものでした。また、この会を仕切った5年生は次年度への準備になったのではないのでしょうか。

「6年生を送る会」が3月3日（金）にありました。会場には子ども達の寄せ書きなど飾られ、心温まる雰囲気の中進みました。1年生から5年生までが、6年生への感謝の気持ちが伝わる発表でした。6年生の出し物の後の歌声は、会場や子どもたち・保護者・先生方の心に響くものでした。また、この会を仕切った5年生は次年度への準備になったのではないのでしょうか。



全校の児童の心が一つになった、有意義で思い出に残る楽しい集会となりました。

6年生の皆さん、本当にありがとう！



英語スピーチ発表会

3月6日（月）の3・4校時に、6年生の外国語活動の成果を披露する、「英語スピーチ発表会」がありました。5年生が観客となる中で、6年生一人ひとりが堂々と、英語で「自分の将来の夢」等を発表しました。保護者の皆さんから感想発表もあり、とても良かったですね。発表の後には5・6年生の交流の機会もあり、素敵な時間を過ごせたようです。



（教頭 川崎 広輝）

清水中学校

バイキング給食

給食センターの皆さんが、3年生の卒業をお祝いしてバイキング給食を催してくださいました。

生徒たちが大好きだった給食の定番メニューに加えて、様々な工夫を凝らした、他学年・他校の通常給食と並行して作るの、本当に大変だったと思います。

たくさんのごちそうが並び、生徒たちは大喜びで、お腹いっぱいいただきました。

昨年の台風被災時、断水の中、センター職員の皆さんの家も大変なのに、清水の子どもたちのために給食を作ってくださいました。「清中生がボランティア活動をしたと聞いて、私たちががんばろうと思いました」と言ってくださいました。

また、「生徒保護者の皆さんから伝えられた、給食への感謝の言葉が励みになりました」ともお話くださいました。



（栄養士さんのお話）



（手の込んだメニューの数々）



（給食センターの皆さんもいっしょに）



(給食モニターさんや、学校支援委員さんもいっしょに)



(感謝を込めた合唱を聞いていただきました)



(最後は9年間のお礼を述べました)

(教頭 伊澤理紀)

御影中学校

ピンクシャツデー

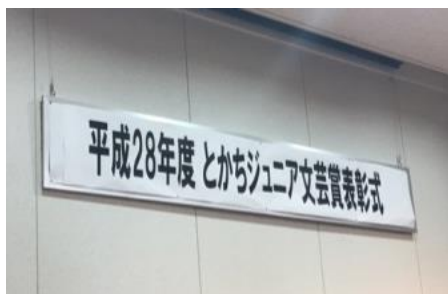
2月22日(水)ピンクシャツデーの取組を行いました。生徒会が中心となり20日~24日までの一週間、生徒も教職員もピンクリボンを胸に付け「いじめ撲滅啓発運動」を実施。PTAとおやじの会の賛同も得て、22日は朝8時から玄関前であいさつ運動を兼ねた啓発活動も合わせて実施しました。

22日は4名のお父さんが集合。生徒会役員、生活委員会とともに登校する子どもたちに呼びかけをしてくださいました。ピンクのシャツを着たり、ピンクのタオルを首に巻いたりした4人のお父さんたちは終始笑顔で、子どもたちも大いに刺激を受けていた様子でした。

生徒会役員、生活委員会も一体となって取り組むことができた今年のピンクシャツデーは、大成功でした。十勝毎日新聞社の取材を受けた生徒会長は、「もともといじめが少ない学校だが、さらにいじめがない学校になってほしい」、おやじの会代表も「地域の全体に運動を広げ、いじめという言葉自体なくなれば」と話してくださいました。これからの学校生活が、いじめのない楽しいものになるよう願っています。



十勝ジュニア文芸賞「推進奨励賞」受賞

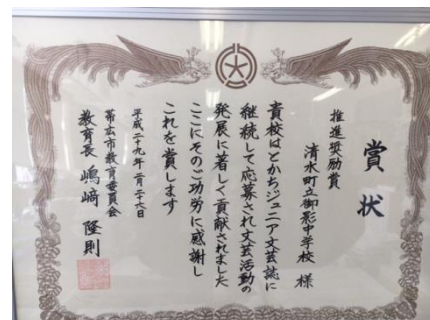


2月26日(日)、帯広市図書館で十勝ジュニア文芸賞表彰式がありました。御影中学校からは3年連続で作品の応募があり、その継続した活動が「文芸活動の発展に著しく貢献した」として表彰されたものです。実は、3年前にも奨励賞をいただいております。短期間の間に2度も受賞させていただいたこととなります。

学校では、国語科を中心に各種文芸作品のコンクール

に出品しています。今年度は短歌、俳句、書道などに続き、学校としての活動を認めていただく賞を受賞し、喜ばしい限りです。

今後も、子どもたちの感性がより磨かれ、その感性を見いだしながら、励みとなり次への創作意欲へつながるよう、学校として支援して参りたいと考えております。



第24回一筆啓上賞「ごめんなさい」佳作受賞

日本一短い手紙として知られる一筆啓上ですが、平成28年度は全国から44348通の応募があり178通入選しています。北海道からの入選は5人のみ。その中の一人に本校の3年生が選ばれました。中学生ではただ一人です。素晴らしい結果をいただきました。

「お兄ちゃん」へ

いつもごめんね。でもさ、十割中三割りくらいは、お兄ちゃんも悪いよね。

(教頭 宗形真恵)

清水高等学校

何を第一に考えるか ～

総合学科18期生、卒業おめでとう

校長 西嶋潤一

3月1日(水)、無事、卒業生138名を送り出しました。昨年は前日が大雪でJRが止まり、オホーツク、釧路、根室、室蘭等で暴風雪のため、30校余りが次の日以降に卒業式を延期しました。今年は穏やかな天候に恵まれ、全道的に無事、卒業式が終了しています。

今年度の皆勤賞は18名。昨年度が13名ですから大幅に増えています。無欠席で一回も遅刻・早退が無く、授業の欠課も無かった人たちです。皆勤賞に準ずる精勤賞も42名。昨年度は29名でした。学校に来て授業を大切にしている、そんな清水高校の雰囲気がかかります。

皆勤賞の生徒は清水が4名、下宿が1名、それ以外は御影1名、新得1名、芽室3名、帯広市内が8名です。これからの将来、何の心配もいらない基本的な生活習慣が身に付いた卒業生です。それぞれの夢に向かっての春が始まります。

卒業式の式辞で「今の世の中は、自分のことを第一に考える風潮が強くなっています。その中で、自分のことばかりでなく、みんなのことを第一に考える。ボランティアも含めて、

皆さんは自然に、人のために行動できました。危機に際してどう考えどう行動したのか、私は、あのときの清水高校生、そして先生方の取組を誇りに思っています。」とお話しました。

自分より困っている人に自分の空いている手を差し伸べる、それが人間としての基本。そう考えて、災害の時の生徒や先生方の行動を紹介しました。

子どもでも大人でも、「いじめ」は、他人を攻撃して自分より弱い人を作ることから始まります。他人が自分よりも困っていたり、自分よりも不幸であったりすれば自尊心を満足させられる。弱い人間はしばしばそういった間違いに陥ります。

清水高校の生徒には「弱い人」にはなって欲しくない。他人を思いやることを第一に、本当の「強さ」を身に付けて欲しいと痛切に思います。

「ちょっといい話」、2年間、いろいろ書きましたが、読んでいただいた皆様に深く感謝いたします。

卒業おめでとう。清水高校に関わった皆さんに幸せな未来が訪れますように。



(卒業証書授与)



(答 辞)



(卒業担任)

清水幼稚園

園長 福原幸江

一日入園…17名参加いただきました

2月15日(水)に4月から幼稚園に入園する16名の未就園児と年中児1名が、少しでも幼稚園に慣れて、安心して登園できるようにと、一日入園を実施しました。

9時からの受付には、次々とお母さんと一緒に登園してきました。面接に一度来園しているせいか、明るく挨拶をする子がほとんどでした。



お母さんと遊戯場や各教室で自由に遊んだ後、遊戯場に集合し、開会式を行いました。その後、在園児からの歌のプレゼントや年長児からの手遊び(グーチョキパー他)を楽しみました。リズムあそびの様子をみてもらった後に、年中さんと、新入園児と一緒にリズムに合わ



せてアヒル歩きをしました。最後に、先生からのエプロンシアター（三匹の子ブタ）を見た後で、年中組さんから手作りのメダルのプレゼントをもらいました。

ゆきあそび…！！

2月26日（日）に、幼稚園のお父さんたちの会「ひぐまクラブ」主催による「わくわく雪遊び」が行われました。今年は、中央公園の築山にこんもり雪が積もった大きな雪山で実施されました。お父さんたちが階段や道をつけてくれていました。少々風が強い時もありましたが、お日様が時折顔を出し、天候に恵まれた楽しいひと時となりました。

まず初めは、「宝物さがし」です。子どもたちが雪山で思う存分遊んでいるうちに、公園の雪原に合計50個のボールを、お父さんたちが投げ込みました。スタートの合図で、全員一斉に雪原に飛び出しましたが、雪に脚をとられ、なかなか思うように進めません。さすがに小学生や年長さんは力強くボールを探し当てましたが、足跡だらけになった雪の中ではもう見つかりません。お父さんの「あと6個！…あと2個…あと1個！！」の声にみんなで大賑わいでした。

そのあとはお父さんたちの作ってくれた小さなジャンプ台などでもそり遊びに興じ、ほっぺまで真っ赤になりながら大喜びでした。

最後は、「しっぽ取り」ゲームです。お父さんが鬼になって尻尾をつけて逃げることになりました。ところが、体重の軽い子供の身軽さに比べ、お父さんたちが雪の中で大苦戦！！息を切らせていました。

帰りにはお土産をいただき、親子で家路につきました。子供たちにとってお父さんやお母さんとの大切な思い出となりました。



第一保育所

鬼は～福は内～！！

2月3日（金）に節分の行事が行われました。朝から大豆を炒り、保育所の中は、豆の良い香りが漂っていました。各クラスで作った鬼のお面を身に付け、鬼に変身して遊戯場に集合！この日に向けて、「鬼のパンツ」や「鬼レンジャー」の踊り、豆まきの歌などを練習してきたので、本番は強そうでカッコイイ鬼がたくさん…。

踊りやうたが終わった後、いつ鬼が来るのかとソワソワしている子どもたち…。節分の由来などについてパネルシアターを観てから、新聞紙の豆で豆まきをしていると、本物の鬼が登場…？！かわいいアンパンマンとバイキンマンが登場し、子どもたちは安心した様子で豆まきが終了しました。しかし、再びアンパンマンとバイキンマンが登場！！ところが、アンパンマンとバイキンマンに変装した赤鬼と青鬼で子どもたちは大騒ぎ！！涙を流す子や勇敢に鬼に豆を投げる子もいましたが、最後は、鬼から手紙とお詫びのプレゼントをもらい、

仲直りをしたり、ホッとして鬼に「バイバイ～」したりして豆まきは終了しました。この日で、保育所の中の悪い鬼は、いなくなったかな？



(保育士 高木 奈保)

楽しい雛祭り！！

3月3日（金）にひな祭り会がありました。各クラスの製作発表から始まり、3、4、5歳児の女の子たちがみんなの前に出て、「うれしいひなまつり、おひなさま」を上手に歌ってくれました。

先生から雛人形に関する話やひな祭りの由来についての話をしている間、子どもたちは真剣に耳を傾け「そうなんだ！！」と頷きながら聞いていました。

その後、出し物を見たり、〇×ゲームをしたりして、ひな祭り会を存分に楽しんでいました。お昼には、給食のちらし寿司をお腹一杯食べると、子どもたちの顔から笑みがこぼれていました。



(保育士 森山 浩詩)

第二保育所

ひと足早く春を感じたよ！

外が少しずつ暖かくなってきた2月半ば頃に、保育所で飼っていたアゲハチョウのさなぎが羽化しました！夏に園庭で見つけたあおむし3匹を大切に飼い、あおむしからさなぎへ、そしてチョウへと立派に成長しました。あおむしの成長を見て「葉っぱを食べるんだ～」「うちのおおきいね～」「まんまるだね～」「動いた！」と飼育箱に張り付き、じーっと観察する子どもたくさんいました。羽化してからは、羽の模様を見たり、何をどのように食べるのかを学んだりしていました。アゲハチョウ誕生のおかげで、命の大切さ、儚さを少し感じられた数週間でした。

残り2匹の羽化も楽しみな第二保育所のおともだちです！



(保育士 古田 琴乃)

桃の節句

3月3日(金)に、ひな祭り集会を行いました。「うれしいひなまつり」の歌に振付をし、全児で踊りながら歌いました。振付にも各クラスの個性が出ていて素敵な時間でした。各クラスで作ったおひな様の製作の発表を



したり、由来の話を聞いたり、ゲームをしたりと楽しい時間を過ごしました。ひな祭りは女の子の健康をお祝いする日と知った男の子達は、女の子に「おめでとう」という言葉を掛けていました。「ぼくは5月5日だよね」と確認する様子もあり、微笑ましい姿を見ることが出来ました。

毎年、子どもたちの健やかな成長を願っていきます。

(保育士 笹井 まどか)



御影保育所

鬼は外～！福は内～！

2月3日(金)、節分の日。朝からそわそわしている子どもたち。自分たちが製作したお面を身に付け、遊戯場に集まり、お面の製作で頑張ったところ、難しかったところを発表してから、節分の会が始まりました。節分の由来を教えてもらい、みんなでゲームを楽しみました。すると、2つ目のゲームの説明を聞いているとたん、ベランダから鬼が登場しました！「きゃー！！」と、逃げる子どもたち。それでも頑張って豆を投げていました。鬼はいなくなりましたが、「鬼は外～！福は内～」の声がなんだか小さかったので、みんなで大きな声を出し、練習をしました。そこに再び勢いよく鬼の登場！！怖くてステージの奥に逃げる子、保育士に助けを求める子、涙を流す子もいましたが、ひまわり組(年長児)のみんなは率先して大きな声を出して豆を投げ、鬼に立ち向かっていました。ひまわり組の先生が鬼にさらわれても、ひまわり組の男の子たちは必死に助けに行き、頼もしかったです。怖くて泣いて

いるさくら組（年少児）の友達を抱っこしてくれる優しいひまわり組の女の子もいました。
最後は、きちんと鬼さんが「ごめんなさい」をしてくれ、無事に仲直りが出来ました。



すてきなひなまつり

2月の初めに遊戯場の舞台の上におひなさまが飾られました。ひまわり組の女の子が順番にひな人形を飾り、興味津々に見る子どもたち。完成したおひなさまを見て、「すてきだね」「きれいだね」と、喜んでいました。週明けは、なんだかひな人形の座る位置が変わっていることがあり、「こっそり遊んでいたのかな～」「きっとあかい日に、遊んでいたんだね～」と、何度かびっくりする様子のみんなでした。各クラス一生懸命製作した、おひなさまの飾りも遊戯場に飾られ、「3月3日はまだ～？」と待ち遠しそうな毎日でした。

当日は、各クラスで決めた歌の振付を完璧に踊りながら元気に歌ったり、先生方の出し物を見ておひなさまの由来を教えてもらったり、楽しいゲームも行われました。そして、給食はちらし寿司。「おいしいね～」「おかわりしたい～！」と、笑顔でモリモリ食べていました。おやつでは、ひなあられを食べ、すてきなひなまつりとなりました。



（保育士 中村 明里）

教育委員会

1年間のご愛読に感謝

今年度も町内の幼稚園や保育所、小・中学校、高等学校の保育・教育活動の様子を「ちょっといい話」として紹介させていただきました。

この「ちょっといい話」は、平成24年度から清水町教育委員会ホームページでも配信させていただいております。開かれた保育所・幼稚園・学校の一環として、広く町内外に保育・教育実践を公開するものであります。

清水町の教育は、教育理念を「心響」、実践指標を「しみず「教育の四季）」として、学校、

家庭、地域が連携して、町民総ぐるみで感性あふれ表情豊かな子を育てることにあります。

幼保小中高の接続と連携を縦軸に、家庭、地域、関係機関との連携を横軸とした「学びの環境づくり」に努めています。少人数学級や幼保小中高の連携、各種ボランティア活動等の取組が、この「ちょっといい話」の中に見ることができると思います。お陰様で地域の息づかいとぬくもりに包まれ、確実に子どもたちは成長しています。

今後も、各保育所・幼稚園・学校のご協力のもと、「ちょっといい話」を皆様方に提供していきたいと考えております。

ご高覧の上、ご感想やご意見がございましたら、下記メールアドレスにお寄せいただければ幸いです。

Eメール：sidoukan@town.shimizu.hokkaido.jp

(教育指導幹 清水 彦一)



子ども教育の四季

家庭・学校・地域が連携して町民総ぐるみで「12の窓」から
感性あふれ、表情豊かな子を育てる

春～さわやかな風の中で 元気に力強く

家庭・学校・地域

今月の取組

家庭は、家族の一員

お手伝い

地域は、笑顔で声掛け

こんにちは